

行政視察報告書

令和 3年 7月 15日

長浜市議会議員 柴田光男 様

長浜市議会議員 中道 康雄

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 会派による先進地事例研修

2. 視察期間 令和3年7月13日(火)

3. 視察場所及び目的

三重県北牟婁郡紀北町引本浦345

速水林業 速水 亨

「日本の林業の考察と速水林業の取り組み事業について先進事例に学ぶ」

4. 視察目的

「日本の林業の考察と速水林業の取り組み事業について先進事例に学ぶ」

5. 講師の紹介

速水 亨 1953年三重県紀北町生まれ。

(株)森林再生システム 代表取締役

一般社団法人日本林業経営協会顧問

日本林業経営者協会林政会会長

NPO 法人日本森林管理協議会副代表

慶應義塾大学法学部卒業、東京大学農学部造林学研究室研究生。

「最も美しい森林は最も収穫高き森林」として“地域との共生、自然との共生”をめざす。2000年に日本初の世界的森林認証制度であるFSCを取得。

平成30年度第57回農林水産祭天皇杯受賞(妻の速水紫乃と共に受賞)

【歴任】

農林水産省林政審議会委員、内閣府の事業仕分け民間評価人(仕分け人)及び規制・制度改革委員、環境省中央環境審議会専門委員、国土交通省国土審議会計画部会専門委員、東京大学大学院農学生命科学研究科・農学部運営諮問会議委員、(一社)日本林業経営者協会会長等。

【現職】

三重県経営戦略会議座長、FSC Japan 副代表、公益財団法人イオン環境財団評議員、(一社)日本林業経営者協会顧問、三重県林業経営者協会会長、三重大学臨時講師、愛媛大学臨時講師、京都府立林業大学校特別教授、みえ森林・林業アカデミー特別顧問。

【著書】

- 林業改良普及双書 「機械化林業への取組み」 共著
 日本林業調査会 「スギの新戦略2」 共著
 朝倉書店 「森林の百科」 共著、産業調査会 「森林と木材を活かす事典」 共著
 森林文化協会 「森林環境 2010」 共著
 日経出版 「日本林業 を立て直す」 (2014年 日本政策分析フォーラム シンクタンク賞受賞) 築地書館 「森林未来会議」 共著編者 海青社 「概説 森林認証」 共著

6. 速水林業 経営森林の状況

管理山林	1070.13	
針葉樹人工林	813.32	ヒノキ 99%
人工林蓄積 (m3)	140,726	年間生長量 4,286
広葉樹林	249.12	生態保護林 60
広葉樹林蓄積 (m3)	19,896	年間生長量 326
平成12年12月、単位 ha		
所在：海山町、尾鷲市 所有者：速水勉、速水亨		

資源構成の明細 2019年(H31年)当初

所有形態	樹種	面積ha	蓄積m ³	成長量m ³ /年	備考
所有山林	ヒノキ	805.51	190,552	4,113	
	スギ	4.81	1,021	30	
	その他L	251.63	25,907	150	
	伐採跡地	0.49	0	0	
	その他	0.31	0	0	避難路、アンテナ用地
	更新困難	5.55	0	0	
所有山林計		1,068.30ha	217,480m ³	4,293m ³ /年	
集約化山林	ヒノキ	96.07	23,572	529	
	スギ	2.54	431	14	
	その他L	0.00	0	0	
	伐採跡地	0.00	0	0	
	その他	0.00	0	0	
	更新困難	0.00	0	0	
集約化山林計		98.61ha	24,003m ³	543m ³ /年	
計	ヒノキ	901.58	214,124	4,642	
	スギ	7.35	1,452	44	
	その他L	251.63	25,907	150	
	伐採跡地	0.49	0	0	
	その他	0.31	0	0	避難路、アンテナ用地
	更新困難	5.55	0	0	
合計		1,166.91ha	241,483m ³	4,836m ³ /年	

●人工林の現況と今後の取り扱い

尾鷲林業地帯の山林は、ケツ岩、砂岩の中世層と石英斑岩の火成岩地帯により構成され、地味は瘦地にして収穫量は全国的に見て下位にあります。故に普通材の量的生産では経営の存続は困難であり、高品質材の生産を目的とされてきた。

速水林業の人工林は18 齢級までおおむね法正林型となっています。今後は、従来の施業方法に従うと共に、林地の状況に応じて適切な施業をしていくものです。今までは優良柱材の収穫を主体としてきましたが、木材需要が大きく変わり、節が少ない、無節などの柱需要は激減し、速水林業が最も得意とした12 cm角の化粧柱（役物）用の丸太の販売は難しくなりました。

そこで綺麗な造作材用の板を挽ける長さの丸太、あるいはすでに需要がなくなったと思われていた足場材形状の牡蠣養殖筏用の丸太などが生産されています。それとは別に丸太の末口が60 cm以上になる大径材の収穫を目的とした超長伐期の林分の造成に努力。すでに100年以上の林分は100ha以上。

施業に関しては、細い丸太を早期に大量にとるための30年ほどの伐期設定で1万本/haの植栽密度や3,000本/haの密度で長伐期を目指すなど搬出の利便性など考えながら多様な施業を行っています。特に下刈りは可能な限り行わないこととして植栽後は2回から3回で仕上げるように努めています。

林内に広葉樹を誘導育成し、必要以上の下刈りを避けることなどで植生の多様性の確保に配慮します。除間伐は単に木材生産の密度管理のみを考えるのではなく、下層植生の維持にも配慮して実行。

●速水林業の企業経営

速水林業の経営は、木材需要の変動に限らず、如何なる経済の変動にも耐え得る潜在力のある林業経営を確立して事業の継続と安定をはかり、従業員全体の所得の向上と幸福な生活を確立することを目的とするものである。

速水林業とは、森林施業計画を速水亨、速水淑子がそれぞれの所有の森林を対象に立案し、運営する共同経営体の呼称です。

速水林業から生産されるヒノキ丸太は尾鷲材中の優良材としての評価を受けています。速水林業は経営上、技術上の向上を図り、収穫する木材の量、質共に増産に努めます。さらに国民的要請である自然環境の保全と、よりよき緑の環境を作り出すために、社会的責任を果たしつつ経営の安定と発展を図る。

現在の日本経済における木材需要から考察すると、当分の間は厳しい状態が続くと思われませんが、ヒノキ構造材の需要は大きく変化して、並材の需要は残っていますが、高品質な太めの柱は需要がなくなり、注文に対応するだけとなり、今は高樹齢で節の少ない丸太は、製材工場と協力して、床や壁用の板材生産に転換。

また、需要がなくなったと思われていた建築丸太足場の形状の皮を抜いた丸太が、漁業の牡蠣の養殖の役に大きな需要があることが分かり、またそれらに適した木材の供給が全国的に難しいことも分かり、西日本中心に販売努力を続けている。

速水林業の森林経営計画において、小中丸太の生産も高品質大径木丸太の生産もという多

様な施業に対応した計画に留意しています。これは高賃金の支払いが必要な労働事情からして、省力及び労働生産性の向上の観点からも不可欠なことです。

さらに、林業の厳しい経営環境は長期間好転しないと考えられるため、林業経営も他の生産業と同様、生存のために労働生産性の向上に凌ぎを削らなければなりません。そこで生産性向上の方策として7つの方針を立てています。

●林道作業道

今後の林業経営の発展は林道作業道網の整備にあることは明らかです。速水林業では作業用自動車道の開設に努力してきました。現在は58,000mを開設。

●優良材生産

今までは長い間施業においては、優良材生産を目標に集約育林作業を実行してまいりましたが、近年は需要動向が大きく変わり、新築住宅戸数も頭打ちから減退に変わり、住宅のデザインは柱を見せるデザインから壁で覆ってしまうデザインに変わり、速水林業が得意とする節の少ない高級な柱材は一般的には不要となり、長期的には大径木有料材への志向は続けるが、現時点では皮をむいた長い丸太の需要が大量に存在するため、それ自体も本末同大のつまり細いところから根元に近い太いところの直径の差が小さいものが好まれ、一つの優良材となる。

●伐期

速水林業の森林施業計画は比較的長伐期を目指している。

伐期については、経済的な見地から見て多くの説がありますが、労働賃金の上昇が続き、再造林費が多額になると、速水林業の樹齢構成、蓄積からみて長伐期は生産性の向上に大きく貢献するものと考えられます。

また、短伐期も近年は注目されており、速水林業も今一度過去にやっていた20～40年の伐期も検討している。

更に自然環境保全、緑の造成等の社会要請に答えるため、間伐、択伐等の施業を漸次取り入れていくものとしませんが、経営上必要な皆伐も実行していきます。この場合は資源的持続性を考えた成長量とのバランスを十分に考慮。

●育種

速水林業の主力樹種であるヒノキは現在まで優良造林品種の選抜が比較的遅れています。そこで通直性、完満度、捻じれ、枝張、樹高成長、肥大成長、材質等の観点から優良造林品種を選抜し、接ぎ木、挿し木等により採穂、採種園も造成したが、今ではすでに植林した林分から大量の差し穂が採穂できるようになっており、約18万本の苗木生産が可能になっている。育苗期間も一般的に2年～3年かかるところを半年から1年で出荷できるようになっている。

●機械化

林業における機械化は現場が急傾斜地であるがゆえに非常に困難です。従って当地における機械化は、林道の開設と並行的に実行することで可能になります。

現在は、主に搬出の機械化に取り組んでおり、モビールクレーン×5、タワーヤーダー×6、スキディングローダー×5を購入し、3人1チーム構成で、二つの現場をもって2台のタワーヤーダーを配置し成果を上げています

●流通販売

速水林業が素材市場に於いての丸太販売から製材工場と協力して直売しています。

今後、地域の製材工場や森林組合との連携をより強め、また地域外で速水林業の木を評価していただける製材工場等にも販売して、それぞれきめの細かい製品の流通まで配慮し、現場で働く一人一人も木材の販売に責任を持つ体制を作ることに努力しています。

●環境配慮

速水林業は以前から「美しい山造り」を大事に森林管理を行っています。平成12年2月に国際的な森林の民間認証である森林管理協議会（FSC）の認証審査を日本で最初に受けました。

>> FSC 森林認証へ

速水林業の経営は、FSCの原則、基準を遵守することが重点事項となります。これにより環境的機能の高い森林、特に人工林が育成できると考えています。

平成13年4月には、第2回朝日新聞「明日への環境賞」森林文化特別賞を受賞しています。

7. 研修内容

国内林業のプラス・マイナス面や我が国の森林の特徴、国内木材の価格の推移や速水林業の経営環境等の取組について、別紙のとおり研修。

木材価格の下落からコストダウンが進まない。原因は、国県の提案を写している 実利計画をすべきと提案したい。

5月のウッドショックは、7月には、回復しているが、林業を取り巻く環境は厳しい状態にある。

今後は、Jクレジットを活用するスキムをつくるのは難しいが検討する必要がある。

長浜市の育成標準は、循環林の捉え方木材等生産機能を重視する森林であり、木材を安定的に供給する観点から、成長量程度の伐採の持続的な実施を基本として、若齢林の主伐の回避、適切な更新及び間伐の実施が計画されている森林を育成する必要がある。

長浜市の面積は、68,079haうち森林面積37,303ha 国有林野面積3,302ha。

長浜市は、総面積の55%が森林で、国有林はそのうち9%を占めています。

上谷山国有林は、滋賀県の最北端、福井県との県境に位置し、一部にスギが植栽されているものの、大半が天然林の二次林となっており、水源かん養保安林に指定されています。平成16年には「上谷山ブナ・ミズナラ植物群落保護林」(574ha)に設定されたほか、ケヤキを対象とした文化財継承林(66ha)にも一部が設定されています。

三谷山国有林、神使熊国有林は、それぞれこうづくまれ寺領であったものが、明治初期に国有林に編入されました 本市も森林面積が多く、林業を振興するためには、これまであまり木材が使われてこなかった事務所や店舗などの中高層非住宅建築物で、国産材を利用することが重要です。

内閣官房では、林業振興や地方創生を目指し、中大規模建築物への国産材 CLT 利用の普及を推進していることや地球温暖化の原因と言われているCO₂（二酸化炭素）は、全排出量のう

ち約3分の1を建築関連が占めると推計されています。

森林は、木が成長する過程でCO₂を吸収して固定するため、木材利用拡大によるCO₂排出量低減に注目が集まっています。

建築物に木材を使うと長期間CO₂を固定できるため、CO₂排出量を抑えられます。

本市も、木材普及の為にCLTを活用した住宅や公共施設に活用する支援策を構築することや、J-クレジット制度の活用等で、森林を守り、河川を守り、獣害対策を講じる政策へと展開すべきと思いました。

研修を受けて、J-クレジット制度の研究をさらに継続させることや、森林所有者以外に森林を守ることの重要性、災害、琵琶湖の水質、水の大切さなど淀川水系の最上流にある本市が大きくなうねりをあげて研修や森林を守る政策を強く打ち出すことが必要だと強く研修から学びました。

また、そのためには、2つの森林行政を司る森林組合の基盤強化が急がれるとさらに先生のお話から感じました。

■J-クレジット制度とは、適切な森林管理などによって削減された温室効果ガスの「削減量」や「吸収量」を、「J-クレジット」として国が認証する制度です。

認証されたJ-クレジットは、大企業や中小企業、地方自治体などに売却することができます。

■J-クレジット購入者のメリットとしては、以下の4つが挙げられます。

①環境貢献企業としてのPR効果が期待できる

②CO₂などの温室効果ガスの削減目標を掲げている企業もありますが、自社の努力だけではどうしても目標に追いつかない場合もあります。そのような場合にJ-クレジットを購入することで、しっかりと温室効果ガスの削減を行っているという実績を得ることができます。

③環境貢献企業として一般消費者や取引先へPRができるのです。

④温対法や省エネ法に活用できる